

第 143 回日商簿記検定試験 2 級 **TAC** 講評

全体

商業簿記 第 2 問は完答がほぼ不可能な難しい問題です。また、工業簿記は基本的な問題ではありますがボリュームがありました。

今回の試験では「第 2 問をどう対処したか」が合否を分けるポイントになると言えます。平均合格率（全国）は 20%前後と思われます。

第 1 問 (20 点)

勘定指定の仕訳問題です。比較的解きやすい問題であり満点が狙える問題です。

第 2 問 (20 点)

固定資産の個別問題です。内容の込み入った難しい問題です。

- ・建物については、解答すべきです。資本的支出に注意します。
- ・備品については、基本的に捨て問です。解答要求が「固定資産管理台帳」の記入であるうえ、250%定率法、200%定率法が混在しています。また、端数処理の指示が不適切であるため、備品 B の計算について必要以上に頭を悩ませる問題になっています。したがって、この問題に時間を掛けるのは得策ではありません。
- ・ソフトウェアについては、解答すべきです。ソフトウェアは無形固定資産であるため、その減価償却は、「直接法」により記帳されることに注意します。

第 3 問 (20 点)

損益計算書の作成問題です。比較的解きやすい問題です。「検収基準による売上の計上」「減価償却」「貸倒引当金」の処理に注意が必要です。第 3 問は、基本的に部分点狙いの問題ですが、本問の場合、14 点は得点すべき問題です。

第 4 問 (20 点)

個別原価計算の問題です。製造指図書の内容を整理して、「仕掛品」勘定の記入と「月次損益計算書」を作成します。仕損費の処理に注意が必要です。また、製造間接費の差異分析は「固定予算」を前提に「予算差異」と「操業度差異」を求めます。本問は満点が狙える問題です。

第 5 問 (20 点)

標準原価計算の問題です。「完成品標準原価」の計算、および「差異分析」の計算が問われていますが、月初・月末の仕掛品が存在しないため、解きやすい問題になっています。本問も満点が狙える問題です。

平成 28 年 6 月 12 日

TAC 簿記検定講座